

令和元年度 篠井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、自ら正しく判断でき、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成			
健康で明るい子ども	（きたえる）	よく考え 自ら学習する子ども	（かんがえる）
すなおで親切な子ども	（たすけあう）	根気よく働く子ども	（がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

篠井小学校の歴史と伝統を重んじ、全教職員の熱意・協働の精神を基盤として、子どもたちが21世紀を担うよりよき社会人として成長し続けることができるよう「心豊かでたくましく生きる力」を育む教育に取り組み、地域とともに「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- 児童にとって、居がいのある「活力あふれる楽しい学校」を目指し、教職員が同僚性と協働性を発揮し、社会の変化に対応する教育活動を推進する。
(活力あふれる楽しい学校づくり)
- 勤務時間を意識した働き方と業務改善を推進し、教職員の使命を自覚して自己啓発と研修の充実、専門性と指導力の向上に努める。
(教職員の資質の向上)
- 地域や児童の特性に即した創意工夫ある教育課程を編成し、特色ある教育活動を推進する。
(特色ある教育課程の編成)
- 基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等を育むために、学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくりに努める。
(学力の向上)
- 「特別の教科 道徳」や体験活動を核に、あらゆる教育活動を通して、感謝の気持ちや人を思いやる心などを育むとともに、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。
(豊かな心の育成)
- 基本的な生活習慣の確立、自己有用感と規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成を図る児童指導の充実に努める。
(児童指導の充実)
- 生涯にわたって健康で安全な生活を実現する力を育むために、不審者・災害訓練・交通安全教室などを通して身を守るための行動力の育成、健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。
(健康・安全教育の充実)
- 家庭・地域・学校園内の学校及び各種団体、関係諸機関との連携を密にし、開かれた学校の運営・教育効果の向上・安全確保の充実に努める。
(地域との連携強化)

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園
－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 教育課程編成の方針

- 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、小学校学習指導要領、県教育委員会の方針、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、本校教育目標の達成のための経営方針、前年度学校評価、本年度の本校教育の努力点等を十分に踏まえて編成する。
- 教育活動全体を通じて、児童の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、教育課程を編成する。
- 児童に生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努める。
- 小中一貫教育カリキュラムに基づき家庭や晃陽地域学校園内の各学校との連携を図りながら、義務教育9年間を見通して、学力の向上を目指した教育の実践に努める。
- 道徳教育や体験活動及び交流活動を充実するとともに、善悪の判断や社会生活上のルールなどを重点的に指導し、豊かな人間性や社会性の育成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
○ 「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」づくりを目指した知・徳・体の調和のとれた力の育成と自己のよさを生かせる教育活動の推進
【学 習 指 導】
・ 確かな学力を身に付け、共に学び合う児童の育成 —基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を育てるための指導の工夫を通して—
【児 童 生 徒 指 導】
・ 学校のきまりやマナーを守り、互いのよさを認め合い、思いやりの心を持って行動できる児童の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
・ 自己の健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成 —運動の日常化を図るための教科体育と外遊びの工夫—

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
目 指 す	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 基礎・基本の定着を目指す授業を行い、児童に分かる喜びや達成感を味わわせ、学習の意欲付けを図る。 ② <u>児童の興味・関心のある教材を用いたり、課題の設定の仕方や発問を工夫したりする。また、児童の学び合いにペア学習やグループ学習を意識的に取り入れていくことにより、児童が積極的に学習に取り組めるようにする。</u> ③ 学校だよりや学年だより等を通して、保護者へ授業や児童の取組についての状況発信を積極的に行う。	B	【達成状況】指標達成 児童の肯定的回答：95.2% 授業の工夫や朝の学習の充実、及び家庭学習の奨励に加え、マスターカードを使った復習を新たに始めたことにより、児童の学習に向かう姿勢が向上するとともに、既習事項の確認と達成感を味わわせることができた。 【次年度の方針】 分かる授業を継続して実施するとともに、自己評価カードを使いながら一人一人の意欲や学習に対する達成感を高めていく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学校行事や交流活動をとおして、時と場に応じた言葉使いの指導を推進する。（ふわふわ言葉の推奨） ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B	【達成状況】指標達成 児童の肯定的回答：91.3% 生活の中で言葉遣いについて指導するとともに、学校行事や縦割り班活動による交流活動、人権集会を通して、相手を思いやる心の醸成を図ることができた。 【次年度の方針】 思いやりの心を言葉でも表現できるように、異学年交流を通して相手を思いやる心を育むとともに、各種行事においても指導の重点とする。

児童の姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 全職員の共通理解に基づき、基本的な生活習慣の形成と社会規範及び責任を果たそうとする態度の育成に努める。そのため、「篠井小よい子の約束」の順守と毎月の振り返りによる習慣化の徹底を図る。 ② <u>生活目標の達成を目指した生活当番制による指導の徹底（達成カードの配付）</u> ③ 授業、学校行事など毎日の生活の中で、時と場に応じた態度や行動の指導を行う。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定的回答：81.7% 昨年度の児童の肯定的な回答86.4%には至らなかったが、教職員の肯定的回答は大幅に増え、保護者、地域の肯定的回答も上昇した。 【次年度の方針】 学校園での共通課題や「篠井小のよい子の約束」を今一度確認し、毎月の生活目標を意識した生活の習慣化を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童会を主体とした年4回のあいさつ運動を実施する。<u>地域学校園においても、年2回、時期を合わせてあいさつ運動を展開する。がんばりカードの活用や表彰により実践意欲を高める。</u> ② あらゆる場面であいさつの意味や大切さについて児童とともに考え、内面からあいさつをしようとする態度を育てる。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：83.1% 昨年度までの懸案事項であったが、保護者の肯定回答が約10ポイント上昇した。児童の肯定回答も約13ポイント上昇し、意識の向上が見られた。 【次年度の方針】 校内での活動や学校園での取組を継続し、学校・家庭・地域それぞれが意識を高めていけるよう啓発していく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 地域と協力してボランティア活動や地域の行事に参加するとともに、ボランティアに参加した児童を称賛し、意欲の持続と高揚を図る。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：92.3% 学校行事や児童会活動・授業等において、目標に向けて粘り強く取り組むことの重要性を指導してきた。 【次年度の方針】 学校生活において児童の主体的な活動を推進するとともに、学校行事や児童会活動・授業等において児童の創意工夫を生かした活動の充実に努める。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。 ② 食育だより、保健だよりを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：90.6% 近隣の駐在所と連携した防犯訓練の実施や、児童の意識を高める避難訓練を実施した。また、各種たよりを通して家庭への啓発活動も行った。 【次年度の方針】 防犯意識や防災意識の高まりが見られ、今後も活動を継続する。健康や栄養に関する意識は改善の余地が見られるので、引き続き個別に指導を行うとともに、家庭と連携しながら取り組んでいく。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 地域と協力してボランティア活動や地域の行事に参加するとともに、ボランティアに参加した児童を称賛し、意欲の持続と高揚を図る。	B	【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：89.5% 学校行事や児童会活動・授業等において、目標に向けて粘り強く取り組むことの重要性を指導してきたため、A5における児童の肯定回答とほぼ合致する回答が得られた。 【次年度の方針】 学習や普段の生活や学校行事を通して、成就感や満足感を得る体験を積み重ね、夢や目標に向かって取り組もうとする意欲を育む。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	A	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：89.4% 校内研修や相互に授業を見せ合う機会の充実を図るとともに、ALTとも連携した外国語活動を実施し、指導力の向上を図ることができた。 【次年度の方針】 児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるように、引き続き校内研修を充実させたり、外国語活動で交流する活動を設けたりする。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学校行事については、学校や地域及び児童の実態に応じた内容を精選し、児童が創意工夫を生かして積極的に参加し、成就感や満足感を十分味わえる活動ができるよう努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：86.5% 生活科や社会科の学習と、かさまつ祭での活動を通して地域理解を深めることができた。 【次年度の方針】 新しく始まる『宇都宮学』の研修を行ったり、地域学習の成果をかさまつ祭で保護者や地域に対して発表したりすることで、児童及び保護者の篠井地区や宇都宮市に対する理解を深めていく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書室を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：98.1% パソコンを活用した授業の推進や、パソコン室のタブレットを最大限に生かした授業展開を図ることで、児童のICTへの意識を高めるとともに、図書室において各種イベントを企画し、児童の意欲の喚起を図ることができた。 【次年度の方針】 保護者の肯定回答が75.4%と低かったため、授業参観日においてICT機器や図書を利用した授業公開を行い、活用状況を積極的に発信していく。

目 指 す 学 校 の	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 ⇒教職員肯定的回答 80%以上	① 学校行事や交流活動をととして、時と場に応じた言葉使いの指導を推進する。（ふわふわ言葉の推奨） ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定：100% 学校行事や交流活動（高齢者との活動）において、他者への思いやりの心の醸成を図ってきた。計画の段階においても、どのような配慮が必要か考えさせてきた。 【次年度の方針】 保護者の肯定回答が80%ともう一歩であった。特に交流活動の取組内容を積極的に発信し、人権教育に関する取組も、学校行事と関連させながら進めていく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育やみやエコスクール等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 環境教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して計画的に実施する。 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：88.5% 民間企業との連携を図った環境教育を実施し、児童の意識は向上した。 【次年度の方針】 5年生の総合的な学習を中心に環境教育に力を入れるとともに、年間指導計画に基づき、環境と調和しながら生きていくことの意識や態度の育成に努める。
	B1 安全に対する判断力と行動力、危険予知能力の育成に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、登下校の時や、学校・家庭で安全に心がけて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。 ②各学年の児童の実態に応じた交通安全教室を実施し、交通安全の意識を高める。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.2% 近隣の駐在所と連携した防犯訓練の実施や、児童の意識を高める避難訓練を実施した。また、各種たよりを通して家庭への啓発活動を行った。 【次年度の方針】 実際の災害を意識した活動を行い、自分の身を守ることができる判断力の育成に努める。また、普段の生活から自分で考えて安全に心がけて行動ができるように指導する。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% スクールカウンセラーとも連携しながら特別な支援を必要とする児童や保護者のニーズに合った支援を検討し実施してきた。 【次年度の方針】 特別な支援を必要とする児童への支援は充実してきたので、通常の学級における個別支援に関しても、一人一人のニーズに合った合理的な配慮について検討していく。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>道徳の授業や学級活動において、生命尊重やいじめを題材にした授業を、全クラスが学期に1回実施する。</u> <u>また、学校生活全体を通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを理解させる。</u> ② いじめゼロ強調月間を設定し（5・9月）、いじめゼロ集会（5月）の開催や児童から募集した標語・ポスターの掲示を行い、行事・係活動等を通して、思いやりの心をもって助け合うことの大切さを理解させる。 ③ ふれあい班活動等、異学年交流活動を通して、様々な交流を深め、早期発見と迅速な対応に努める。	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：97.1% 生命尊重や自他の敬愛について、道徳の授業や各種集会、異学年交流を実施することで、実践的な態度の育成に努めてきた。学校での取組や保護者との連携への理解が深まり、保護者の肯定回答が約10ポイント上昇した。 【次年度の方針】 今後も、道徳の授業を中心に人権感覚を高める指導を継続していく。また、いじめ問題の未然防止・早期発見・早期解決と、迅速な対応を目指し、組織的な対応や保護者との連携を維持していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</u> ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体での情報共有を図る。	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.2% 学校園で連携を図り、認め励ます指導や、児童相互で認め合う場を設定するなど、積極的な学級経営を行った結果、自己肯定感が高まった。現時点で不登校は0である。 【次年度の方針】 不適応傾向や不登校の兆候を見逃さないよう、教育相談や各種調査を効果的に活用する。また、必要に応じて、保護者との連携を図っていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% 外国人児童生徒の割合は低いが、一人一人の実態に応じた取組を行うとともに、互いを認め合うことを大切にした学級経営を行ってきた。 【次年度の方針】 必要に応じて専門的なスタッフと連携し、個別の支援計画に基づいて系統的・計画的で組織的な支援体制作りに努める。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 創意ある活動の時間を教育課程に位置付け、教育活動にゆとりと広がりを持たせるようにする。 ② 学校行事やふれあい活動等は、ねらいを明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：87.5% 指標は達成したが、昨年度の児童の肯定回答94.1%からはポイントを下げた。 【次年度の方針】 達成感や充実感を感じる学校行事やふれあい活動を実施するとともに、一人一人のよさを認めたり伸ばしたりする環境づくりに努めることで、児童が生き生きと活動できるようにしていく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の能力を育成するために、学習内容に応じた学習形態の工夫や教材・教具の工夫を図り、個に応じた学習指導を充実させていく。</u> ② 学習内容のまとめ方の工夫や児童による学習の振り返りにより、学習内容の確認と児童の学習状況をつかむことで適切な指導・支援に生かしていく。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.2% 学校園全体で基礎・基本の充実に取り組み、学力の向上を図ってきた。また、基礎・基本のさらなる充実に努め、マスターカードによる復習に取り組んだ。 【次年度の方針】 学業指導の充実に努め、授業に向かう積極的な姿勢を強化するとともに、一人一人に配慮したきめ細かな指導の充実に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にし、連携・分担を適切に行うことで、学校の教育力が向上するようなコミュニケーションに努める。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% 本年度はスタッフが充実し、それぞれの役割分担を明確にしたことで学校全体の教育力が向上した。 【次年度の方針】 職員の相互理解を深めるコミュニケーションに努め、組織として業務に取り組める体制を整えるとともに、役割分担の更なる明確化に努める。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 専門性を生かした教育活動を充実させ、「チームとしての学校」を推進し、学校内外の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を生かした活動を展開する。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	A 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% 研修の集約や勤務時間を意識した会議のもち方を工夫するとともに、専門的なスタッフを効果的に活用することができた。 【次年度の方針】 一人一人の意識改革を推進するとともに、諸教育活動の見直しや、校務分掌の見直し・複数配置等を行うことで、今以上に児童への指導の時間を確保することに努める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① <u>学習習慣確立のために晃陽地域学校園として設定した「あいさつ・返事・姿勢」について、小中9年間継続指導を行う。</u> ② <u>5年生の冒険活動や6年生の中学校訪問の機会をとらえて小中交流活動を行う。</u> ③ 学校だよりや学校園だよりを活用し、取組の内容を、積極的に発信する。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：90.9% 各種たよりを通して学校園での取組を発信してきたため、保護者の肯定回答が5ポイント以上向上した。 【次年度の方針】 学校園での取組を積極的に発信するとともに、あいさつ運動などでは、機会をとらえて家庭と連携しながら実施する。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。 ② 街の先生（学校ボランティア）の活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。	A	【達成状況】指標達成 地域住民の肯定回答：96.6% 地域協議会の協力のもと、地域の団体と連携した「交流学习」や「みどり活動」及び「しのいクリーン作戦（清掃活動）」などを実践することができた。 【次年度の方針】 地域の団体も楽しみにしている活動であるため、児童の学習内容を検討しながら継続していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。 ② 街の先生（学校ボランティア）の活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。	B	【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：91.9% ふれあい文化教室や民間企業とタイアップした理科や社会の学習、及び地域のリンゴ園見学学習など、各教科と関連した取り組みを実施することができた。 【次年度の方針】 肯定回答は高いが、取組の実態を理解している保護者は少ないと思われる。実施した活動については積極的にお知らせする。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等のチェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：96.6% 各種マニュアルを整備し、安全点検の結果をできるだけ素早く反映させてきた。季節ごとの対策についても、早めに保護者に連絡し、予防に努めてきた。 【次年度の方針】 それぞれの取組について職員間や保護者と共通理解を図り、不測の事態に対応できるように体制を整えていく。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A	【達成状況】指標が達成できなかった 保護者の肯定回答：75.4% パソコンを活用した授業の推進や、パソコン室のタブレットを最大限に生かした授業展開を図るとともに、図書室においても各種イベントを企画し、児童の意欲の喚起を図ってきた。 【次年度の方針】 適宜ICTを活用した授業に取り組んできたが、来年度から始まるプログラミング教育に合わせ、さらに活用を増やしていく。また、読書に関しても、児童の意欲を喚起する取組を継続して実施するとともに、整備環境の充実に努める。

本校の特色・課題等	B2 心の交流を図り、豊かな人間性の育成を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、『みどり活動（種まき・田植え・稲刈り等）』『ふれあい班活動（なかよしタイムでの遊び等）』に対して積極的に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① みどり活動の積極的推進に努め、自然への理解を深め、自然愛護の心や態度の育成を図るとともに、みどり・農園活動を通して、勤労・生産・収穫の喜びや望ましい人間関係を育成する。 ② 縦割り班（ふれあい班）活動を推進するとともに、清掃にも一部縦割りの体制を取り入れることにより、心の交流を図り、心豊かな人間関係を育成する。	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.2% 全校生でのみどり活動に加え、縦割り班活動の見直しや委員会活動の工夫により、児童の人間関係の育成を図ってきた。 【次年度の方針】 みどり活動においては、児童の実態や地域の実情に合わせて改善しながら、縦割り班活動の特色を生かせるようにしていく。また、他の活動においても、縦割り班活動のよさが発揮できることはないか検討を重ねながら実践していく。
-----------	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

新たな評価項目が多く、単純に昨年度までと比べることはできないが、全体的に90%以上の肯定的な回答が多く、昨年度よりもポイントを上げた項目も多かった。本校の教育目標である『きたえる』『考える』『たすけあう』『がんばる』が具現化され、児童自身が成長を自覚するとともに、保護者や地域住民にも、一定の理解が得られていると考えられる。

○ 26項目で指標を達成したが、特に、A1「進んで学習に取り組んでいる。」A3「きまりやマナーを守って生活している。」A4「時と場に応じたあいさつをしている。」では、十分に指標を達成することができた。

- ・ 昨年度保護者の肯定回答が低かったA14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、80%を超え、早期発見・早期対応及び、人権意識を高める指導が効果を上げてきていると考えられる。
- ・ A9「宇都宮の良さを知っている。」A10「ICT機器や図書室を学習に活用している。」（A25「学習に必要なICTや図書を整えている。」）A11「高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」（A2「思いやりの心を持っている。」）については、今後更なる取り組みの必要性を感じるので力を入れていきたい。特に、A25は、唯一指標を達成できなかった。次年度は、取組の充実を図るとともに、授業参観日等において、ICT機器や図書を利用した授業公開を積極的に行っていく。
- ・ 市の小学校全体の平均と比べると、教職員ではA5「児童は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる。」A7「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」の肯定回答が僅かに低い。学校生活において児童の主体的な活動を推進するとともに、学校行事や児童会活動・授業等において児童の創意工夫を生かした活動の充実にも努める。

7 学校関係者評価

- ・ 道で出会ったときにあいさつをしてくれる子どもがいる。感謝の気持ちや時と場に応じた挨拶の力は身に付いてきている。
- ・ 篠井の良さについてICTを活用し、児童自身が発信していくことも可能ではないか。今後検討してほしい。
- ・ ICTに関しては、教師自身が研修を積み、より指導の幅を広げてほしい。また、かなり使用しているとのことなので、授業参観の折などに活用している様子を見せていただくと、保護者の肯定回答が上昇するのではないかと。
- ・ 宇都宮の良さに関しては大人と子供の意見が乖離している。地域の自然や冒険活動センターなどを活用した活動はできないか。また、「篠井ガイドブック」を活用してはどうか。
- ・ 教育目標に向かう創意工夫が見受けられる。今後、児童自身の気付きや個性を大切にしたい指導を心がけ、生き抜く力を育ててほしい。
- ・ 今年は東京オリンピックが開催されるため、海外に目を向ける絶好の機会である。また、前回の東京オリンピックでの聖火リレーの経験者も在住しているので、町の先生として活用してはどうか。
- ・ 地域の方々は、学校での様子を見ることはなかなか難しい。何かよい方法はないものか。
- ・ 持続可能な社会という質問は難しい。
- ・ 先生方が常に子供たちのことを第一に考えていただけることはありがたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 挨拶に関してはここ数年の課題であるが、児童の向上的変容は確実に見えてきた。学校園での共通課題や「篠井小のよい子の約束」を再確認し、さらなる習慣化を図る。
 - ・ いじめの指導に関して、保護者の肯定的回答可大幅に向上したことは成果である。この結果を生かし、今後も、道德を中心とした人権意識を高める指導を継続し、いじめの早期発見早期解決につなげていく。
 - ・ ICTを活用した授業の展開については、教職員や児童の結果からも、かなり使用頻度が高いことがうかがわれる。しかし、保護者や地域住民にとっては目にしたことが少ないということが結果として表れている。今後、授業参観やフリー参観、学校行事等において積極的に活用していくとともに、音楽集会や音読集会等に保護者地域住民をご招待する機会を増やしていく。また、教職員自身も研修等に積極的に参加しスキルアップを目指す。
- 地域の良さを生かし、持続可能な教育課程の編成を目指して、現在、地域の素材を活用した学校行事の再編や、保護者の負担減を考慮した遠足・宿泊学習の内容・方法の検討をしている。児童一人一人がより輝ける学校にしていくために、今後もPDCAのサイクルを大切に活動を展開していく。